

「墨田区子ども読書活動推進計画(第5次)」(案)(概要版)

1 計画の位置づけ(P2～3)

- 「子どもの読書活動の推進に関する法律」(第9条第2項)及び「墨田区子ども読書活動推進条例」(第9条)の規定に基づき策定する。
- 国の第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び東京都の「第四次東京都子供読書活動推進計画」を基本として、「墨田区基本構想」、「墨田区基本計画」、「墨田区教育施策大綱」、「墨田区教育委員会 教育目標」、「すみだ教育指針」及び「(仮称)墨田区こども計画」とも整合性を図った、子どもの読書活動の総合的な計画であり、今後5年間にわたる子どもの読書活動の具体的な施策を明らかにするもの
- 計画期間
令和7年度から令和11年度まで

2 「すみだの子ども声」と現状の課題(P19～22)

○すみだの子どもや乳幼児等の保護者の声(アンケート結果)

- #読みたい本がない #本は面白い # (学年が上がるにつれて) 本を読むのが好きではなくなる
- #本は家族や友達のすすめで選ぶ #本以外にはマンガやネットニュースを読む
- # (乳幼児の保護者) 家庭での読み聞かせの頻度 毎日: 39% 週3～6日: 24%
- # (乳幼児の保護者) 読み聞かせの時間がない
- # (乳幼児の保護者) 図書館を利用しない理由) 本は自分で買う 図書館は手続きが面倒

○第5次計画に向けた課題

- ①本に全く触れない子どもをなくす
- ②家庭や地域での読書習慣の形成
- ③読書習慣の継続



3 第5次計画でめざす子どもの姿(基本方針と3つの基本目標)(P23～24)

○基本方針「子どもがみずから本に親しみ、本とともに豊かな人生を送っている」

子どもがよりよく生きていくための、人生の良きパートナーとして、本がすぐそばにあり続けることをめざし、学校や子育て関連施設、地域と連携して子どもの読書活動を推進するための、共通の目標として、10年・20年先を見据えた、墨田区のめざすべき子どもたちの姿を簡潔に明示する。

基本目標1 子どもが好きな本に出会い、本と友達になっている

子どもが「本を読みたい」という気持ちから、様々な本に関心を持ち、その中から自分の好きな本が分かり、最終的には子どもが「ずっとそばに置きたい」と思えるような本に出会えていることをめざす。

基本目標2 子どもが読みたいときに、いつでもどこでも本を読んでいる

家庭、保育園、幼稚園、学校等でも手の届くところに本があり、さらには、育つ環境や子どもの様々な特性の違いに関係なく、子どもが読みたいと思ったときに、いつでもどこでも、何の障壁もなく読める環境が作られていることをめざす。

基本目標3 子どもが本をきっかけに、人や地域とつながっている

大人から本を読んでもらうことで感じる安心感や信頼感の醸成、年齢の高い子どもから年齢の低い子どもへの読み聞かせなどの関わり、読んだ本について話し合う友達同士の情報交換等を行うことで自分以外の人とつながっていることをめざす。また、本から得た知識や疑似体験から、社会に関心を抱くなど、子どもが本をきっかけとして、自ら社会に関わることができていることをめざす。

4 第5次計画の特徴(P37～38)

○子どもが主役の計画

- ・主語を「子ども」にした方針と目標
- ・子どもの声を取り入れた計画
- ・子ども向け概要版の作成
- ・子どもにもわかりやすい事業名

○区民と共に策定した計画

- ・公募委員を交えた協議会で議論を重ねて作成する。

○読書は人生をより良くする手段として位置づけた計画

- ・「人生の良きパートナーとして、本がすぐそばにあり続けること」を計画の基本方針に設定する。
- ・読書の量だけでなく、本との「出会い」に重きを置いた施策

○重点プロジェクトを明確にした計画

- ・子どもの読書活動を強力に推進するための重点的な取組として、2つの「読書推進プロジェクト」を設定する。

■プロジェクト1「ウチナカ・プロジェクト」

「家読(うちどく)」の推進
保護者向け子育てイベントの開催
ブックスタートの充実

■プロジェクト2「子どもが主役プロジェクト」

子ども司書の養成
中高生ボランティアの育成
子どものニーズ調査の実施、施策への反映

5 基本目標達成に向けたポイント(大事にしたい子どもの姿)と主な事業(P25～28)

(1)乳幼児

基本目標 1	「もういっぱいよんで！」 子どもの読みたい気持ちに答え、好き・楽しいという気持ちを育むことを大事にする。
基本目標 2	「本がいっぱい！」 子どものもっと読みたい、ちがう本を読みたい！に答えるため、手の届くところにいつでも本がある状態をつくる。
基本目標 3	「本をとおした共感」を大事に！ 大人から本を読んでもらうことで、安心や、信頼を感じる。子どもに本の楽しさを伝える。本を介して、大人や友達と共感し、順応性や社会性、感性を磨く。

【主な事業】

- ・ 1105「家の人といっしょに読もう・話そう」家読（うちどく）の推進【新規】
- ・ 2101「絵本をもっと簡単に」絵本・子育て関連図書の貸出サービスの充実【拡充】
- ・ 3101「図書館って楽しい」図書館に来たくなるイベントの実施【拡充】
- ・ 3102「親だって本に癒されたい」保護者向け子育てイベントの実施【新規】

(2)小学生

基本目標 1	「これを読みたい！」「また読みたい！」 と思えるような本に出会っている。自分の好きな本がわかってくる。
基本目標 2	「ここにも本がある！」 生活圏である家庭、学校、児童館等で、本に触れる場所と機会がある。
基本目標 3	「こんな本があるんだ！」 身近に本に触れる機会があり、本の情報を伝え合える人がいる。

【主な事業】

- ・ 1107「知らないことは本に聞こう」子どもの調べもの支援【継続】
- ・ 2201「読みたい本がいっぱい」各施設における図書環境の充実【拡充】
- ・ 2205「学校でもっと本を読みたい」学校図書館の放課後利用促進【拡充】
- ・ 3107「今日から私も図書館員」子ども司書養成講座の開催・関連した体験型イベントの実施【新規】

(3)中高生

基本目標 1	「ずっとそばにおきたい！」 と思えるような本に出会っている。 生きる力につながり、道しるべになる本がわかってくる。
基本目標 2	「本を読む時間も、あってもいいよね！」 部活やスマホもいいけど、本に触れる時間を、意識してつくっている。図書館にきて、本に触れる機会を持っている。
基本目標 3	「本を介してかかわれる人や場がある！」 本をきっかけとして、社会に興味・関心を持ち、自ら関わっている。

【主な事業】

- ・ 2106「いつでもどこでも本が読める」図書館 DX の推進【拡充】
- ・ 2111「一緒に読みたい・話したい」子どもたちがグループで利用できる場の提供【拡充】
- ・ 3107「今日から私も図書館員」子ども司書養成講座の開催・関連した体験型イベントの実施【新規】
- ・ 3110「私たちも図書館のために」中高生ボランティアの育成・活性化【新規】

(4)特別な配慮を要する子ども

特別な配慮を要する子どもの読書活動については、配慮の有無にかかわらず、分け隔てなく発達段階の特性に応じた利用をめざすことから、「大事にしたい子どもの姿」は各年齢の発達段階に含めている。

【主な事業】

- ・ 特 1108「おもしろい本あるよ」特別な配慮を要する子ども向け図書に関する情報提供【拡充】
- ・ 特 2112「みんなが読める本がいっぱい」障害等に配慮した資料の充実【拡充】
- ・ 特 2113「みんなが使いやすい図書館」図書館バリアフリーの推進【継続】
- ・ 特 3113「子どもの読書をサポート」障害児読書ボランティアの活性化【拡充】

6 計画の達成を測る指標(P29～30)

	指 標	令和 5 年度実績	令和 11 年度目標
全体目標	1 か月で本に触れた小・中学生の割合	小学生 92.3% 中学生 81.5%	小学生 95%以上 中学生 85%以上
基本目標 1	本を読むのが好きと回答する小・中学生の割合	77.0%	80%以上
	本を読まない理由で「本がおもしろくない」と回答する小・中学生の割合	28.6%	20%以下
基本目標 2	巡回による団体貸出を行っている施設数（区立学校及び幼稚園・保育園）	52 施設	75 施設
	電子書籍をよく読むと回答する小・中学生の割合	20.1%	25%以上
基本目標 3	本を選ぶとき友達のすすめから選ぶと回答する小・中学生の割合	22.6%	30%以上
	図書館に行く理由で「イベントに参加するため」と回答する小・中学生の割合	19.5%	30%以上